
バランスゲーム

厨房

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バランスゲーム

【Nコード】

N9665N

【作者名】

厨房

【あらすじ】

赤火幼竜の剣を扱う15歳の少年ベクスは平凡ながらも幸せな日々を過ごしていた。だが突然のバランスゲームのプレイヤーへの選抜により、フリーグレイなる集団の領地、グレイランドへ旅に出る。

大鉄蠍狩り 前

辺りは昼間とは思えない静けさに包まれている。周りに人の姿は無い。この延々と続く様にさえ見える街道の先には白い館の様な建造物がぽつんと建っている。

その街道をベクスとバスタは無言でずんずんと歩いていくと、これまで街道の道のりに終止符が打たれた。

二人の目の前には先ほどとは違って堂々と白の館が建っている。

二人は躊躇う事なくその建物へと入っていった。

館へ入ると外の静けさと真逆で、がやがやとしていた。

それを気にせず二人は奥の巨大な掲示板へと足を運んだ。無言のまま。

その緑色の掲示板は縦の長さは自分達の背程だが、横の長さは先が見えない程だった。

その掲示板からベクスは一枚の漆黒の紙に白の文字で何かが書かれた紙を強引に剥がし、そのまま掲示板と対の方向にあるカウンタ―へと足を運んだ。

「この依頼をお願いするよ。」口を開いたのはベクスだった。

「免許証の提示をお願いします」

ベクスとバスタは黒いカードを差し出した。

「畏まりました、すぐ手配をしますので少々お待ちください」と黒い目、黒い髪、黒い服と帽子と言う全てが黒い女性が言い、その女性のカウンターの奥へと歩いていった。

（腹まで黒いんじゃないかねえのか？）ベクスは根拠の無い事を心の中で思った。

「大鉄蠍は狩るのが始めてだな、ベクス」

「ああ、だがどんな相手もとるあえずぶった切ればいいだろ」

「お前そんなんじゃないや命がいくつあっても足りないぞ」

「そっかも知れないな」

そんな会話をしていると先ほどの女性が歩いてきた。

「手を完了しました、移動の竜はどうしますか？」

「いいんです」二人は同時に言った。

「そうですか、それではお氣をつけて」女性は小さくお辞儀をした。
二人もお辞儀をして館を出発した。

辺りは新緑のジャングル。小さく聞こえる滝の音が辺りの静けさを引き立てている。

二人は大牙猪の肉をほおばっている。

「この肉は上等な肉だな」バスタが肉を口に入れたまま喋っている。

「食事中に口の中を見せるな！」ベクスが一喝した。

「わかった、今度から氣をつけるとするよ」口に肉を入れたまま喋った。

「全然わかってないよ」

バスタは何も返さなかった。

「どうした？」肉をほおばりながら言っている。

「よける！」バスタが大声で言った。

その刹那地面が盛り上がった。

刹那の出来事を後ろに跳んで回避しその盛り上がった地面を見た。

「何だ あれ」ベクスが言った。

「へっ、これで探す手間が省けたぜ。あいつが俺達の目的の大鉄蠍だぜ」バスタは興奮して言った。

「だったら話は早いな」そう言うと同時に後ろに迫った木を蹴って大鉄蠍へ向かって跳んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9665n/>

バランスゲーム

2010年10月9日14時54分発行